

好きな漢字のベスト10

愛 愁 誠 夢 心 美 星 旅 和 真

ある印刷機メーカーが東京のデパートでこの百字の中から好きな一字を選んでくださいというアンケートを取った事がありました。その百字は国立国語研究所の専門家が選んだもので、真・善・美などの抽象的意味を持つもの10字、心・誠・旅など人間の精神や行為が主体の文字を30字とバランスをとりながら選んだそうです。約3400人が投稿しましたが、そのベスト10が上の10字になりました。愛は244票でした。年代別でも10代前半以外は男女各世代で1位だったそうです。

このことについて、ある教授は「砂漠のような精神状況を見せている現代において、一番求められているのが『愛』という事なのでしょう。現代人の孤独感・疎外感の反映と解せられます。」と語ったとの事です。

愛とは

一口に愛と言っても、世の中にはいろいろな愛があります。親子の愛、男女の愛、友愛など・普通、最高のアガペー《自己犠牲愛》からエロス《性愛》までをみな愛と呼んでいます。

愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。愛のない者に神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

Iヨハネ4：7-8

神は実にそのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ヨハネ3：16

人知をはるかに超えたキリストの愛

エペソ3：19

定期集会

どなたでもおいで下さい

(日) 礼拝と学び	10:30~12:10	(水) 聖書の学びと祈禱会	19:30~
教会学校	13:30~14:30		
夕 拝	19:30~	(金) 聖書の学びと祈禱会	10:00~

チャペル通信 99号

2015年 (福祉特集その1) 孤児のおとうさん 石井十次

あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかももっとも小さい者のひとりにしたのは、わたしにしたのです

マタイ26章40節

今年7月に教会の南隣りに、老人介護施設がオープンしました。私たちの教会では8年ほど前から、地域にあります老人施設「たかつ」を訪問する活動をさせていただいております。その活動の中で私たちキリスト者は、急速な**少子高齢化社会**にどのように応えていくべきかを痛感しております。2011年の震災以後、多くの教会が「共生」というキーワードを共有しながら、**地域につながる活動**を展開しております。私たちの教会の「くつろぎの空間」の活動もその一つです。

1859年に横浜に宣教師が来日して、プロテスタント教会の活動が始まりました。沖縄を含めると宣教160年になります。クリスチャン人口は1%にも満たないといわれますが、160年の間に、キリスト教は福祉・教育・音楽の分野で広がりを持ち、日本の文化土壌の中に根付いていると言えます。過去5回は音楽分野でのキリスト教を紹介しましたが、今回から**福祉分野でのキリスト教**を紹介したいと思います。

神さまは、**人類を救うためにイエスさまを世に遣わされました**。神様の愛を知ったクリスチャンは、その愛の内に生き、**愛を実践**していく事が、「証し」となっていくのです。**明治時代**に、一人の生きずりの少年を助けた事から、**孤児院を日本で最初**に開き、3000人の**孤児のおとうさん**といわれたのが**石井十次**という人でした。



宮崎県総合文化公園

〒213-0023 川崎市高津区子母口776

編集 日本同盟 子母口キリスト教会

基督教団 e-mail shibokuchi@church.jp

発行 牧師 小岩井 信 http://shibokuchi.church.jp/

電話 044-766-0181 F A X 044-766-2157



天は父なり、人は同胞なれば互いに信じ、相愛す可き事

石井十次

理想と現実のはざま
で悩む
十次

江戸時代の終わり慶応元年(1865年)に十次は宮崎県児湯郡上江村馬場《高鍋》に生まれました。小学校卒業後世の中の為になりたいと希望を大きく持ち東京の**攻玉社**《目黒区》に学びますが病気になる故郷に帰り、新しい時代にふさわしい大きな事業の野心を持って仲間4人と開墾の仕事を始めましたが村人の反対に会い挫折しました。16歳で、内野品子と結婚し、小学校の教師をしましたが、途中でやめ警察の書記に

なりました。人生の目的がつかめないまま不本意な仕事に就き、自暴自棄になり、大酒を飲んで暴れ、気落ちしたりと今でいう**ノイローゼ**の頃、宮崎病院で治療を受けた際院長の**荻原百々平**より**聖書**をもらい、同時に医者になるよう勧められ、岡山甲種医学校(現岡山大学医学部)に入学しました。岡山はキリスト教の先進地だったのです。(95号参照)

キリスト教との出会い

岡山基督教会(1880年設立)で金森通倫牧師より洗礼を受けました。

ひとりの孤児をひきとって

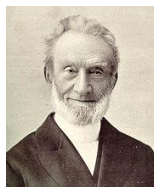
実習の診療所のとりに、貧しい巡礼者が寝泊まりする大師堂があり十次はよく握り飯を運んで世話をしておりました。巡礼の途中で夫と長女を病死させた貧しい巡礼の女から、男の子を預けられた十次と妻品子は、その後も孤児を引き取り「三友寺」の一角で**「孤児教育会」**(のちに岡山孤児院と改称)で養育を開始しました。



医学書を焼いて

子供たちにかかる費用をねん出するために、医学校を欠席していた十次の心の内に**「人はふたりの主人に仕えることはできません」**という聖書のことばが迫りました。ある日突然、庭に書物を全部持ち出し、油をまいて燃やしてしまいました。孤児救済にいのちをかける決心をしたのです。

日本のジョージ・ミユラーをめざして



ジョージ・ミユラーはイギリスでプリストル孤児院を設立した牧師です。新島襄の招へいで同志社で講演をしました。後に社会鍋で知られる救世軍の創始者山室軍平にも影響を与えました。十次はこの講演に深く感動しました。

十次を支えた人々

孤児教育会は会費制でスタートしましたが、寄付に頼る事で運営を円滑化しようとしました。最初この事業に協力したのが**ライオン歯磨**で有名な**小林富次郎商店**でした。また倉敷大原美術館で知られる**大原孫三郎**(現クラボウの二代目社長)も多大な寄付で支えました。特に十次にブラスバンド楽器を寄贈しました。十次はそれを孤児たちに教え**幻燈音楽隊**を結成して郷里宮崎県を巡回宣伝しました。その後寄付依頼が順調に出来るようになりました。



1200人の孤児

格差社会に心いためた十次と即断実行

孤児教育会は1887年(明治20年)にスタートしました。近代化の始まりで格差が広がり始め、都市部に人があふれだす中、孤児の数も増えていきました。1890年に**濃尾地方に起きた大地震**での孤児93人のために直ぐに名古屋に孤児院を設立《翌年岡山に収容》したり、日露戦争後の戦争孤児63人を収容しました。明治39年東北地方を襲った飢饉では824人を引き受け**1200人**が養われました。その費用は今のお金で1ヶ月**6000万円**とのことです

孤児に生きる力を与える教育方法

すべてが順調に発展したわけではありませんでした。施設でのコレラ発生で孤児が4人亡くなったり、引き取った子供の非行事件・最初に支えた妻品子の死などとても人間だけの力で乗り切れることは難しい難局にも、十次を支えたのは信仰心・祈りでした。一途に突き進む十次には、新しい思想・方法も早くから取り入れました。家族制度をとりいれたイギリスのバーナードホームの制度を取り入れ、少数の子供を一人の保育士が世話をする方法や、ルソーのエミールに感銘を受け宮崎茶臼原に農業小学校を作り孤児を移住させ開墾を目指しました。



プレゼント
予告

チャペル通信100号記念 特別プレゼント
次号で100号を迎えることとなります。皆さまのご愛読を感謝しての**星野富弘2016年 卓上カレンダー(1200円相当)**を抽選で10プレゼントいたします。詳しくは100号をごらんください。